

第67期 中間期 株主通信

2017年1月1日 → 2017年6月30日

最先端のカスタマイズ・ ボトル・ファクトリーへ

TAKEMOTOは既製ボトルで
お客様のモノづくりのお手伝いをします。

証券コード: 4248



トップメッセージ

平素より格別のご高配を賜り、厚く御礼申し上げます。

当社では2016年12月末の株主様を対象として初めて株主優待を実施いたしました。合わせて実施させていただいたアンケートで多くの株主様の声も伺うことができました。さまざまなご意見があり、今後の参考とさせていただきますが、まずはご協力を深謝いたします。

さて、当社は2017年6月19日に市場第一部に指定されました。2014年12月17日に東京証券取引所市場第二部に新規上場してから2年半を要しましたが、この間に当社では、国内で3か所の生産拠点を開増設、海外では3子会社を設立しています。引き続き「開発提案型ボトルパッケージングメーカーとして、世界で最も顧客に必要とされ、チャレンジングで活気ある企業になる」という中期目標の実現へ着実に邁進してまいります。

このほか当2017年第2四半期累計期間では、昨年11月に食品向け包装容器を主力生産品目として設置した岡山事業所が本格生産に移行しています。新たにクリーン成形室を設けたこともあり、今後の生産拡大にお客様からも大きな期待を寄せていただいています。

また、昨年子会社を設立したインドでは、工場建設用地を確保し来年初めの工場完成へ向けて建設工事に着手しています。23千㎡の土地に射出成形を中心とした製造工程を設置する予定で、日本、中国と合わせて世界への製品供給基地としていく予定です。来年の株主総会ではインド工場完成の報告ができるものと考えています。

このような施策を展開する中、当第2四半期決算は化粧品のお客様を中心とした旺盛な需要にも支えられて、日本・中国とも売上高は計画を上回る水準で伸ばすことができました。

当社グループは、今後とも世界市場へ向けてチャレンジを続けてまいります。

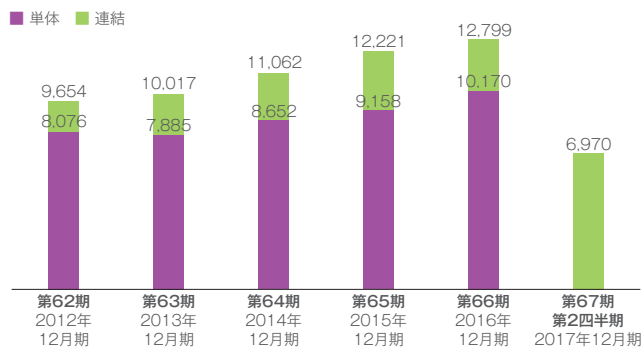
株主の皆様には、変わらぬご支援の程、よろしくお願いいたします。

代表取締役社長 竹本 笑子

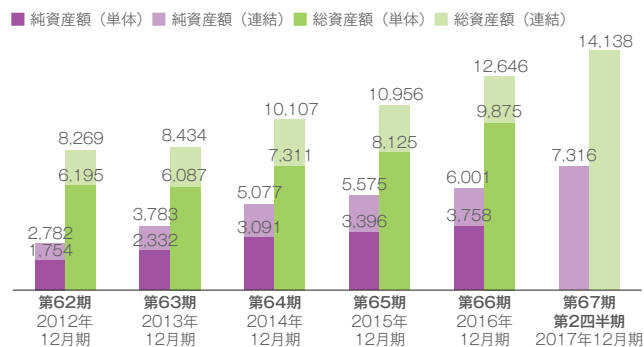


決算ハイライト

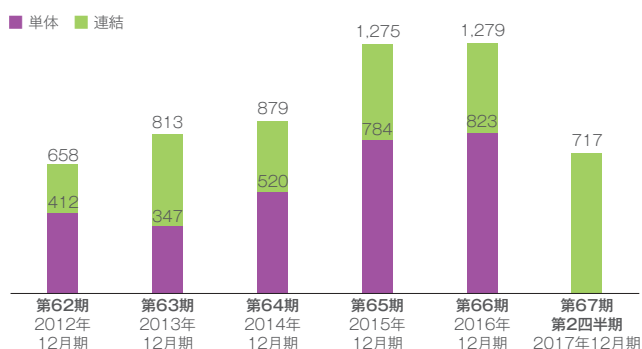
売上高 (単位:百万円)



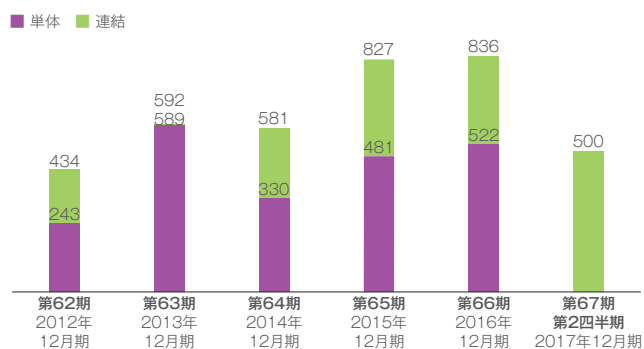
純資産額／総資産額 (単位:百万円)



経常利益 (単位:百万円)



当期純利益又は親会社株主に帰属する当期純利益 (単位:百万円)



NEW PRODUCT 新製品紹介

EGI-300

丸み・安定感のあるイメージの新シリーズの容器です。シャンプーなどのトイレタリー向けにお使いいただける製品です。



M CJ-500B

見た目はガラス瓶のようなデザイン性の食品向けやインテリア雑貨等、幅広くお使いいただけるプラスチック容器です。



DBIIシリーズ

メール便対応のトライアル向け薄型ボトルのシリーズです。使い勝手のよいオーバル形状の容器で、さまざまな用途でご使用いただけます。



PEP-30AZ

高価格帯の美容液等向けで底部の厚みの特長の容器です。上から押して使用するタイプのスポイトやポンプを付属することができます。



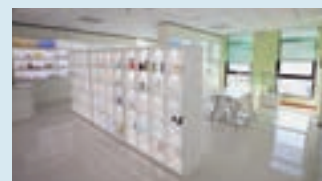
○上海竹本容器包装有限公司 オフィス移転

中国に所在する当社子会社であります上海竹本容器包装有限公司の事務所機能を24階建てのオフィスビル内へ2017年2月末に移転いたしました。

移転の主な理由としては、人員増などによる事務所スペースの拡張、ショールームスペースの充実、交通の便の向上となります。

従来の工場兼事務所からも近く、人員やスペースの相互活用が可能となっております。

なお、移転後の旧事務所スペースにつきましては、併設しております工場を拡張し、生産能力の増強を予定しております。



○TAKEMOTO YOHKI INDIA PRIVATE LIMITED 工場建設

2016年8月に設立されましたインドに所在する当社子会社でありますTAKEMOTO YOHKI INDIA PRIVATE LIMITEDは、インド「独立の父」ガンジー出生地として知られるグジャラート州、その中の主要都市アーメダバード近郊のサナンドに工業用地を取得、2017年4月に建設に着手し来年3月の稼働開始を目指しています。



○FSSC22000 認証取得

当社結城事業所において、食品用プラスチック包装容器の製造（印刷製品は除く）を対象とするFSSC22000の認証を2017年5月19日に取得いたしましたのでお知らせいたします。

FSSC22000とは、食品安全マネジメントシステムに関する国際規格です。

認証取得は通過点であり、今後は維持活動とFSSCの管理手法を製品の品質管理にも流用する活動が中心となっていきます。取得して終わりではなくFSSC22000の考え方を社内に定着させ業務効率を上げるのが目的です。

FSSC22000の認証取得に伴い、他社との差別化を図り、これまで以上に品質向上に努め、特に食品関係の得意先にアピールし、取引の拡大を目指します。



JQA-FC0115
結城事業所
食品用プラスチック
包装容器の製造
(印刷製品は除く)

○東京証券取引所市場第一部指定

当社株式は、2014年12月17日に東京証券取引所市場第二部に指定されておりましたが、この度、同取引所一部指定審査を経て、2017年5月29日に承認され6月19日に市場第一部銘柄へ指定されました。

これは、株主の皆様のご支援の賜物であり、心より御礼申し上げます。

今後、中長期も含めた会社計画の実現に向けて、全社を挙げて邁進してまいりますので、引き続き変わらぬご支援の程、よろしくお願い申し上げます。



○ [アメリカ] West pack展示会 出展

アメリカアナハイムにて、2017年2月7日から9日の3日間開催されました。

開催期間中261名が来場。約9割がカリフォルニアから訪れており、業種としてはパーソナルケア・コスメティクス、食品関係、健食・メディカル系の他、同業や容器代理店、充填メーカーなども多数来場され、カラフルな色使いのブースデザインが会場でも目を惹きました。当社の強みである多品種小ロットに魅力を感じられていて、中でも、加飾の技術、付属品のアイテムの多さには一際注目を集め、来場者からの具体的な商談やリクエストも多くいただくことができました。



○ [イタリア] Cosmo Pack展示会 出展

イタリアボローニャにて、2017年3月16日から19日の4日間開催されました。

国、地域別の来場社数の内訳は下記の通りとなります。

- ロシア・欧州 217社
- インド・中東 27社
- アメリカ・カナダ・南米 55社
- アフリカ 18社
- アジア 24社

雑誌広告への製品PR掲載や展示会主催のイノベティブ製品のアワード展示など、事前の宣伝効果もあり、昨年より来場社数が増えました。併設する化粧品展示会（Cosmo Prof）の出展顧客からの来場も多く、高級付加価値化粧品容器や、機能性の高い付属品アイテム、環境に配慮した製品を中心にご注目いただきました。また当社の開発提案力を知っていただき、お客様オリジナルのカスタムボトルの商談へと繋げることができました。



○ [日本] 第8回化粧品産業技術展 CITE Japan 2017 出展

パシフィコ横浜にて、2017年5月31日から6月2日の3日間開催されました。

竹本容器をもっとよく知っていただきたい、また実際に容器を触って体験いただけるようにと構成いたしました。

酸素バリア性の取り組み、機能性容器の体験、オリジナルポンプの紹介、既製品のトータルコーディネートのご提案、カスタムボトルのご提案等を展示しました。その中でもTAKEMOTOカラーセクション19色を紹介するツリー型ディスプレイはとても目を惹き、そのボトルを使用したお土産は、とても喜んでいただきました。

開催期間中711名が来場され、名刺交換させていただきました。



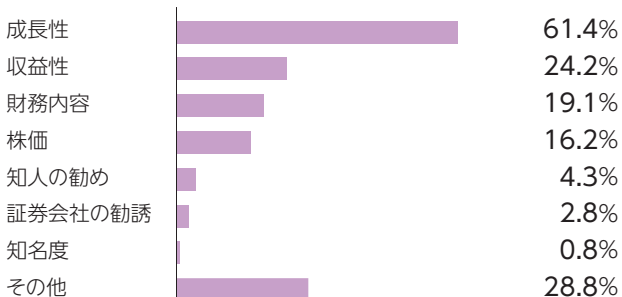
○アンケート結果のご報告

本年4月に実施いたしましたアンケートに関して、多くの株主の皆様からのご回答をいただき、誠にありがとうございました。

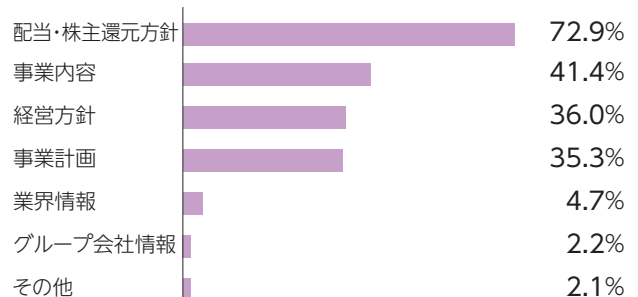
また、貴重なご意見とご指摘もいただき心より御礼申し上げます。

アンケート集計内容を報告させていただきます。

当社株式を購入された理由についてお聞かせ下さい。

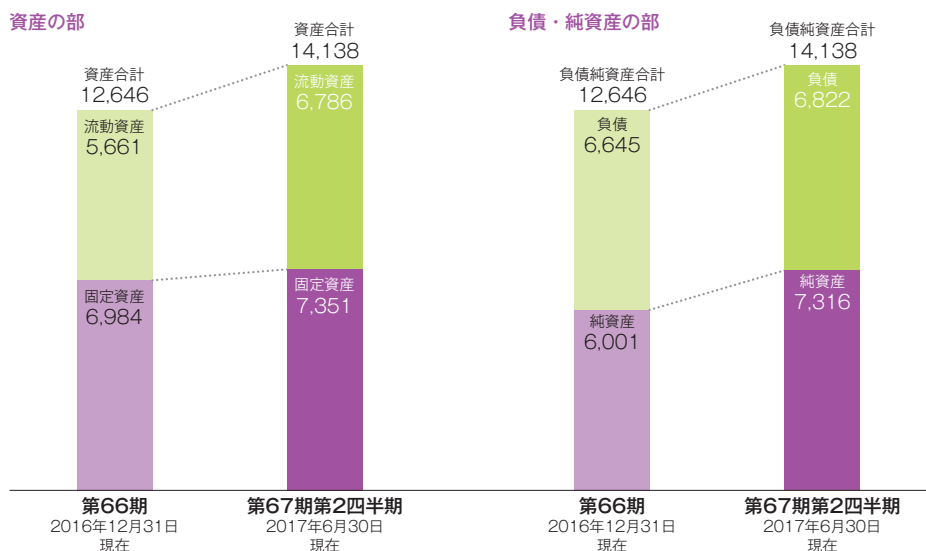


当社に関する情報のうち重視するものをお選び下さい。



連結財務諸表

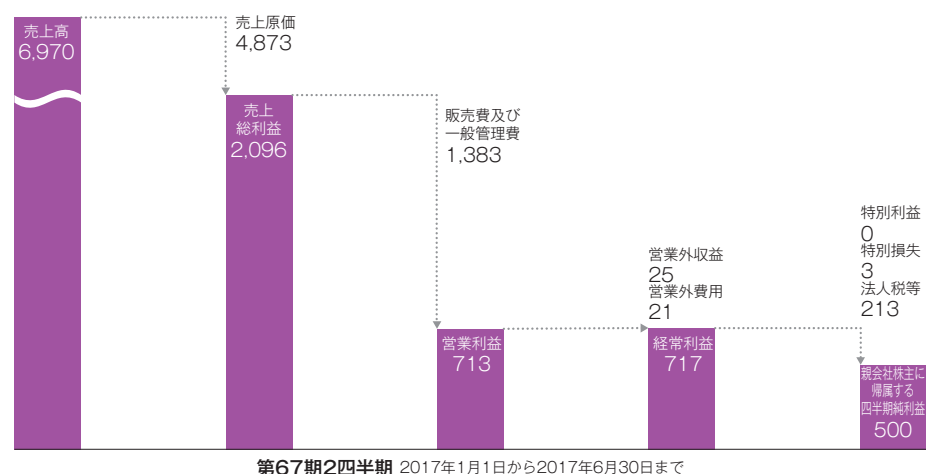
連結貸借対照表 (単位:百万円)



POINT

流動資産は、現金及び預金が9億4千万円、受取手形及び売掛金が2億31百万円増加したことから67億86百万円となりました。
固定資産は、機械装置及び運搬具が1億53百万円、無形固定資産が2億5百万円増加したことから3億66百万円増加の73億51百万円となりました。
負債については、支払手形及び買掛金が2億67百万円、未払金が95百万円、設備支払手形が47百万円増加したものの借入金で3億10百万円減少したことから1億77百万円増加の68億22百万円となりました。
純資産は、公募増資等に伴い資本金と資本剰余金が9億42百万円、利益剰余金が4億9百万円増加したものの為替換算調整勘定が44百万円減少したことにより73億16百万円となりました。

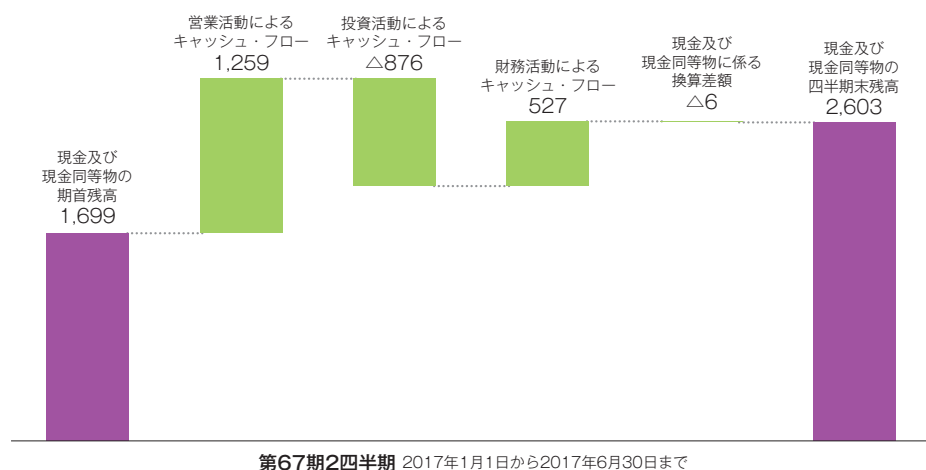
連結損益計算書 (単位:百万円)



POINT

当第2四半期連結累計期間の売上高は既存顧客の業績が引き続き好調であったことが大きく貢献し、69億70百万円（前年同期比8.0%増）となりました。
国内市場においては、スタンダードボトルを軸とした営業活動のほか、カスタムボトルの分野においても当社スタンダードボトルの開発実績を生かした提案活動を積極的に行いました。
また、海外市場においてもスタンダードボトルビジネスを軸とした営業活動を展開しました。
この結果、売上総利益は20億96百万円（前年同期比4.8%増）、営業利益は7億13百万円（前年同期比3.7%減）、経常利益は7億17百万円（前年同期比4.2%減）、親会社株主に帰属する四半期純利益は5億円（前年同期比4.3%増）となりました。

連結キャッシュ・フロー計算書 (単位:百万円)



POINT

営業活動によるキャッシュ・フローは税金等調整前四半期純利益7億14百万円、減価償却費4億62百万円、売上債権の増加額が2億41百万円、法人税等の支払額が1億87百万円となったことから12億59百万円の収入となりました。
投資活動によるキャッシュ・フローは固定資産の取得が8億80百万円であったことから8億76百万円の支出となりました。
財務活動によるキャッシュ・フローは株式の発行による収入が9億29百万円あったものの長期借入金の返済が3億10百万円、配当金の支払が90百万円であったことにより5億27百万円の収入となりました。以上により、現金及び現金同等物の四半期末残高は期首残高に比べ9億4百万円増加の26億3百万円となりました。

会社概要／株式の状況 (2017年6月30日現在)

会社概要

商号 竹本容器株式会社
Takemoto Yohki Co., Ltd.
代表 竹本 笑子
設立 1953年5月19日
所在地 〒111-0035
東京都台東区西浅草一丁目5番15号
資本金 8億314万4,725円
事業内容 プラスチック製等の包装容器の製造及び販売

役員

代表取締役社長 竹本 笑子
常務取締役 深澤 隆弘
取締役 竹本 えつこ
戸田 琢哉
監査等委員(社外) 穴田 信次
田中 達也
石川 雅郎
二宮 洋

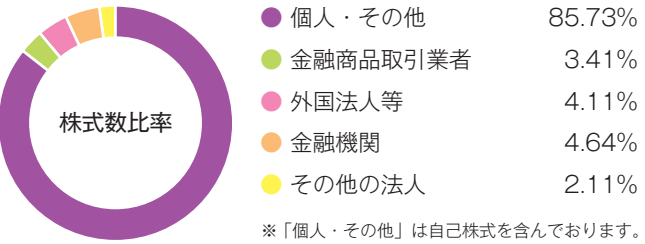
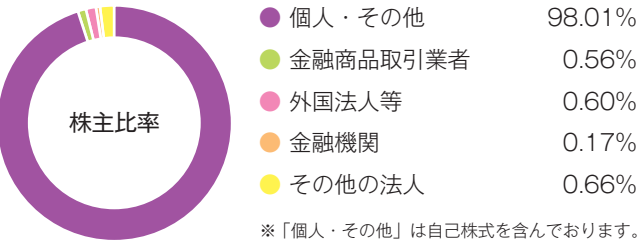
株式情報

発行可能株式総数 20,498,800株
発行済株式の総数 6,264,200株
株主数 5,316名

大株主（上位10名）

株主名	所有株式数（株）	議決権比率（％）
竹本 笑子	1,685,000	26.91
若竹持株会	388,700	6.21
竹本 えつこ	305,100	4.87
深澤 隆弘	265,400	4.24
竹本 雅英	240,000	3.83
竹本 力	227,000	3.63
深澤 英里子	110,000	1.76
日本トラスティ・サービス信託銀行 株式会社（信託口）	104,900	1.68
山本 健人	100,500	1.61
山本 勝人	100,000	1.60

株式分布状況



事業拠点

日本で販売する製品は、一部を除き、日本国内の自社工場（6工場）及び協力メーカーで生産されています。一方、海外で販売する製品につきましては、主に、上海竹本容器包装有限公司、竹本容器（昆山）有限公司で生産されています。



株主メモ

事業年度	1月1日から12月31日まで
期末配当金受領 株主確定日	12月31日
定時株主総会	毎事業年度の末日翌日から3ヶ月以内
株主名簿管理人 （同連絡先）	三菱UFJ信託銀行株式会社 三菱UFJ信託銀行株式会社 証券代行部 東京都府中市日鋼町1-1 電話 0120-232-711（フリーダイヤル）
公告の方法	当会社の公告方法は、電子公告としております。電子公告は当社ホームページに記載しており、そのアドレスは以下のとおりです。 http://www.takemotokk.co.jp ただし、事故その他やむを得ない事由によって電子公告ができない場合は、日本経済新聞に掲載して行います。